

水稻情報 (第5号)

令和5年7月5日
あおば農業協同組合
各地区農業技術者協議会

○6月27日現在、平年に比べコシヒカリの草丈はやや短め、茎数、葉齢は並みに推移しており、幼穂形成期は、5月10日植えて**7月9日頃**、出穂期は**7月31日頃**と予想されます。

○コシヒカリの分施肥体系の場合は、幼穂形成期8日後の生育状況に応じて、穂肥を施用しましょう。

基肥一発施肥体系の場合は、出穂7～10日前に葉色を確認し、葉色が薄い場合は追加穂肥を行いましょ。

○斑点米カメムシ類が多発しています。草刈りと防除の徹底で斑点米の発生を防止しましょう。

1. コシヒカリの生育状況

表. あおば管内のコシヒカリ生育状況(6/27現在、()は予測値)

調査年	田植日	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色	幼穂 形成期	出穂期
			本/株	本/m ²				
R5	5/10	50.5	24.1	489.4	10.5	4.2	(7/9)	(7/31)
R4	5/11	51.6	23.8	514.6	10.4	4.2	7/9	7/31
H25～R4平均	5/10	53.0	24.6	502.1	10.6	4.2	7/9	7/31

2. コシヒカリの穂肥施用 ～圃場毎の適切な穂肥で収量と品質を確保～

○分施肥体系の場合

- ・施用前に幼穂形成期(幼穂長2mm)を確認し、時期を判断しましょう。
- ・穂肥は、幼穂形成期の8日後(幼穂長15mm、右写真)の生育状況に応じて下表のとおり施用しましょう。

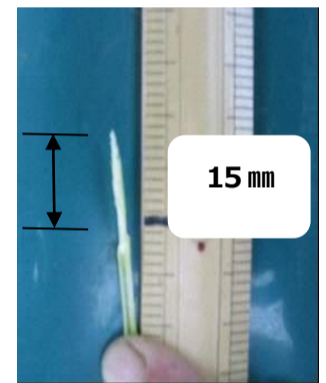


写真 分施肥体系の穂肥施用判断時期

表. 分施肥体系における穂肥(追肥3号)の目安

幼穂形成期の 8日後の生育状況	1回目		2回目	
	施用時期	施用量	施用時期	施用量
適正 草丈 85 cm未満 茎数 430 本/m ² 程度 葉色 3.6 程度	幼穂長 15 mm (幼穂長 2mm確認 8日後)	10 kg /10 a	1回目の 7日後	10～13 kg /10 a
やや 過剰 草丈 85 cm以上 90 cm未満 茎数 480 本/m ² 程度 葉色 3.8 程度	幼穂長 20 mm (幼穂長 2mm確認 10日後)	5～7 kg /10 a	1回目の 7日後	10～13 kg /10 a
過剰 草丈 90 cm以上 茎数 500 本/m ² 以上 かつ葉色 3.8 以上	施用しない		幼穂長 2mm確認から 15日頃 (出穂 7日前頃)	10～13 kg /10 a

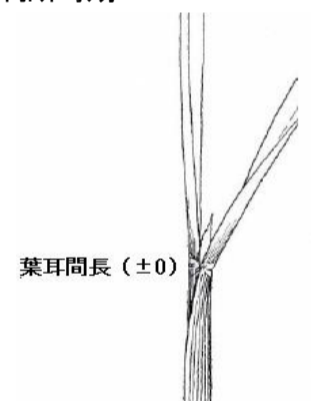


図 基肥一発施肥体系の追加穂肥施用判断時期

止葉の葉耳(葉の付け根)とその下の葉の葉耳が同じ高さにある時期(=葉耳間長±0=出穂10日前)が追肥開始可能時期の目安です

○基肥一発施肥体系の場合

- ・出穂7～10日前(右図参照、**7/21～24**)に葉色を確認し、葉色が4.0(砂壤土4.2)未満と薄い場合は、出穂3日前までに追肥3号で**5～7 kg/10a**を施用しましょう。

3. てんこもりの穂肥施用

田植日5/14の場合⇒てんこもりの幼穂形成期は**7/15**頃、出穂期は**8/6**頃と予想されます。

○分施肥体系の場合

- ・穂肥の1回目は幼穂形成期(幼穂長2mm：**7/15**頃)、2回目はその10日後に、追肥3号を10～13kg/10aずつ施用しましょう。

○基肥一発施肥体系の場合

- ・出穂14日前(**7/23**頃)の葉色が4.0(砂壤土:4.2)以下の場合は、出穂3日前まで速やかに追肥3号を7kg/10a施用しましょう。

熱中症対策や刈払機での作業時の安全確保等、安全対策に留意しましょう。

続く

4. 今後の水管理

～フェーンや高温が予想されるときは事前に入水～

【幼穂形成期から出穂までは飽水管理】

入水→自然減水→足跡の水が無くなる前に入水、を繰り返す

出穂期

湛水状態(田面が出ない程度)

20 日間の湛水管理

出穂後
20 日後

【収穫 5～7 日前までは間断かん水】

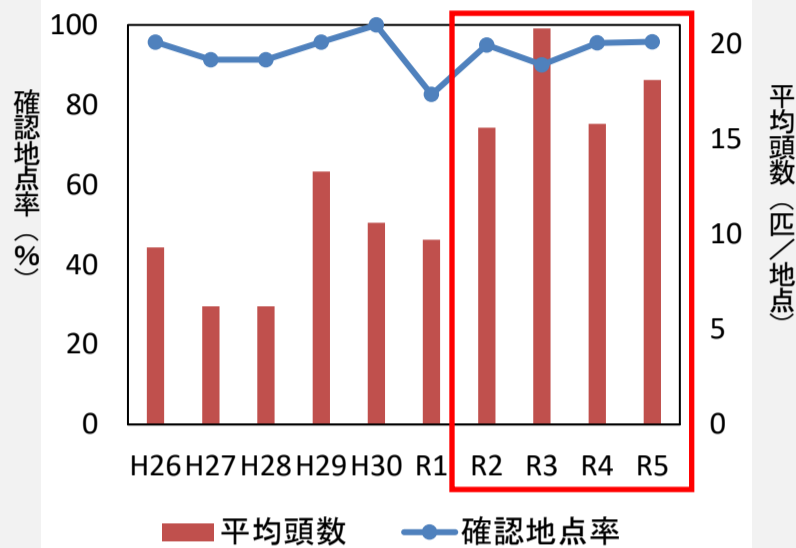
足跡の水が無くなったら入水する
落水を急がない

成熟期

収穫

カメムシ対策 第5回

～カメムシ多発！草刈りと防除の徹底を～



アカヒゲホリミドリカスミカメ



アカシガカスミカメ



クモヘカメムシ



図 畦畔・雑草地のカメムシ確認地点率と頭数 (JA あおば管内 6月下旬調査)

○イネ科雑草の穂が出ないように草刈りを徹底しましょう(約3週間間隔)。

※圃場内のヒエも穂が出る前に抜き取りましょう。

○やむを得ず穂の出ている雑草を刈る場合は、本田の薬剤防除の直前に行いましょう。

○農薬散布は下表を参考にイネの出穂状況を確認して行いましょう。防除間隔は7日を目安とし、10日以上あけないようにしましょう。

表 防除時期の目安(平坦地)～穂揃期+傾穂期の2回防除を徹底！～

品種 (田植時期)	てんたかく (連休植え)	コシヒカリ (5/10 植え)	てんこもり (5/14 植え)	薬剤名		希釈倍数 10a 当たり 散布量	対象 病害虫
出穂予想	7/14～7/16	7/30～8/1	8/5～8/7				
1回目 穂揃期	7/17～7/19	8/2～8/4	8/8～8/10	粉剤	ビームスタークル粉剤5DL	4kg	いもち病 カメムシ類 ウンカ類
				液剤	ビームエイトスタークルゾル	1,000倍 100～150ℓ	
2回目 傾穂期	7/24～7/26	8/9～8/11	8/15～8/17	粉剤	キラップ粉剤DL	4kg	カメムシ類 ウンカ類
				液剤	キラップフロアブル	1,000倍 100～150ℓ	
3回目 【随時】	(多発時) 収穫7日前まで			粉剤	スタークル粉剤DL	3kg	カメムシ類 ウンカ類
				液剤	スタークル液剤10	1,000倍 100～150ℓ	

◆キラップについては、粉剤、液剤ともに収穫14日前まで◆

◆農薬は使用基準を守って、正しく使用しましょう。また、風の無い時間帯に均一に散布して下さい。

【粒剤体系(コシヒカリの場合)】

1回目 : 7/24頃(出穂5～10日前)にワイドパンチ豆つぶ(250g/10a)を湛水してから散布する。

2回目(随時): 8/3頃(穂揃期)にスタークル豆つぶ(250g/10a)を湛水してから散布する。

畦畔まで薬剤が
かかるように
散布しましょう！



農薬危害防止運動実施中！(4/13～9/14)

住宅地周辺で散布する時は事前に周知し、飛散防止を徹底
使用前には必ずラベルで作物名・使用方法等を確認
農薬は適切に保管・管理し、使用した場合は必ず記帳
農薬を調整・散布する時は、マスクなど防護装備を正しく着用